愛知県被災者支援センターニュース 第37号 平成25年8月25日発行

あおぞら

発行 ： 愛知県被災者支援センター
住所 ： 名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階
TEL ： 052-954-6722
FAX ： 052-954-6993
開館 ： 月～金 10～17時

めぐりあい交流キャンプ in 郡上八幡　2013年7月20日（土）～21日（日）

こんにちは！ 夏の疲れがそろそろ出てくる季節柄、みなさんいかがお過しですか？ 私はみなさんと会っている時も会えていない時も、愛知県被災者支援センターを通して思いでつながっているのかなっと思うと嬉しいです。これまでに何度も何度も、心が折れそうになりました。そんな中で、〝めぐりあい交流キャンプ in 郡上八幡〟に参加させていただけたことは、母子避難の私としては、娘がこのキャンプで沢山のお友達と交流をもて、笑顔をいただけたことなど、心から感謝いたしております。今回が第2回目の開催とのことですが、私が参加するのは初めてです。

ご縁あって娘の幼稚園のクラスメイトのお友達とママも一緒に参加することができ、夢のようです。更に嬉しいことは続き、バスで相席した娘たちより一学年上の小 2のお友達の名前が、娘と友達の漢字を一文字ずつとったお名前だったのです。そんな不思議なご縁でつながった 3人は、避難してきた県はそれぞれ違っても、すぐにうち解けていきました。バスの中で、園長先生や保育士、ボランティアの学生の方々が繰り広げるゲームで、バスに乗り合せた子どもたちみなで盛り上がり、子ども自らも車内のみなさんへクイズを出題し、道中を楽しむことができました。

郡上八幡のドライブインでトイレ休憩をとったのですが、名産のお茶や柚子のお菓子やしいたけや採れたてのお野菜が並び、魅力的でした。その横の喫茶店の珈琲に使っているという湧き水がベンチの横にあって、いただくとほんのりあまくてやわらかかったです。森林の落ち葉や草などに由来した自然界の微生物が、ゆっくり時間をかけて分解し、植物が利用しやすいミネラル水に変えてくれた、つまり生きた水、命の水をいただけて思わず「ありがとうございます」っと出てしまうほど、幸せな気持になりました。

現地に着くと、格好のいい木造 2階建ての校舎の横で、今日のための沢山の敷き布団を干したり掃除して待っててくれたスタッフの方が、笑顔で迎えてくれました。各教室に寝床を確保し荷物を置き、早速子どもたちとすぐ側を流れる清流へ行きました。川ではあまごの捕み取りを催してくれて、怖がってる子や何匹も取る子、みんなとっても楽しそう。そして大きなボートで、学生のお姉さんたちが子どもたちを乗せて川下りを、何度もつき合ってくれました。その後みなでバスに乗って、「ほほえみの湯」という温泉に出掛け、広い露天風呂に入りながら森林

を眺め、ホッと一息。無色透明のサラッとしたお湯でした。

現地に戻り、西瓜割りにバーベキューと、続々と繰り広げられます。お手製の竹串に刺したあまごの塩焼きに、豚肉、野菜、スープ、味噌汁、ご飯と豪勢な晩餐です。食事を囲いながら交流を深め、普段話すことできない話しを聞いたり、私自身もお話しすることができたことは、貴重な時間でした。その後子どもたちは花火。私たちは夕食の片付けと、朴葉寿司作りに参加させていただけました。地元の方に習う本場の味を実際作って、明日いただけることが楽しみです。その晩はマスの朴葉寿司を作り、明日は鯖の朴葉寿司をつくるという 2 回に分けた大仕事です。その間子どもたちは肝だめしで、3 ～ 4 人ずつのグループで神社まで行って、「チリンッ」と鳴らして帰ってくるということをしたそうですが、泣く子は見かけず、娘たちも「楽しかったー!! 怖くなかったー!!」と、自慢が止まりません。就寝についた子どもたちが、今日の楽しかったイメージを胸に、どんな夢を見ているのかな～っと思い、微笑ましかったです。

その後、夜な夜な沢山の大人たちが集まり、ビール片手に語らう輪ができていました。

あの日から 2 年 4 ヶ月が過ぎ、今どうしているのか？ どの様な問題が直面してきてるか？ 等、お互いの心の問題から現実につなげていくまでのいろんなお喋りができ、それは夜

中の 3 時近くまで続きました。とても有意義な時間を過すことができました。

翌朝、卵焼きにサラダ、みそ汁、ご飯、パン他をお膳立てくださり、頭が下がります。この日も子どもたちは、川遊びと西瓜割り、スタッフの方が手作りで用意してくださった切った木に絵を書いてペンダントを作らせていただけました。昼は流しそうめんと朴葉寿司と、あまごの甘露煮が絶品で、美味なお味でした。帰りの車中でも娘たちはじゃんけんゲームをし続けて、最後まで楽しんでました。

めぐりあいの会代表の江本さん始め、皆さんありがとうございました。ご一緒したお友達からのコメントです。

「私が嬉しかったのは、名古屋のスタッフと現地のスタッフの方々が、楽しんでもてなしてくれたことです。私たちが状況も知らないお願いをしても、いつも笑顔で対応していただき、私たちが少しでも楽しめるように想ってくださるのが伝わり、ありがたかったです。

震災の後は生きていく為に毎日をこなすのに必死で、楽しみも毎日の日常に埋もれていきました。今回のキャンプは非日常の中にどっぷりと浸ることができて、とても幸せでした。よい機会をありがとうございました」

（三原 香奈子 名古屋市緑区 在住）

平成 25 年度 知多女性たちの会「聞かせて！ 福島から来た子育てママのはなし」

７月 11 日（木）場所：知多市民活動センター 2F

愛知県被災者支援センターから連絡を受け、震災体験をお話しするお約束をしたものの、実は何をお話しすればよいのか、お役に立つことが出来るのか、ずっと迷っていました。

直前に「20 人程度の座談会ならば…　やっぱり！　真面目なお勉強会ではなく、お話し会形式にしよう」と何かが突き抜けてしまい、前日に夜なべ作業で資料（というよりは、お話し小道具）のミニ絵本作りをあたふた、あたふた、と始めました。

一枚の紙に絵や文字を書き、切り込みを入れて、折りたたむと完成。ミニ絵本や資料が出来た頃には、すっかり図書ボランティアのお話しおばさん気分になっていました。

…　被災前には、ずっと福島市で学校図書ボランティアなどの活動をしていました。やっぱりあたふたしながら、ときには徹夜で読み聞かせ用の小道具を作ったり、色々準備をしていくと、子ども達が喜んでお話に耳傾けてくれました…　何よりも、その笑顔に会いたくて続けていた活動でした。

あたふた準備をするうちに、福島市で自分が何をしていたのか、様々な思い出がよみがえってきました。PTA や子ども会、子どもの本の学習会など…

放射能を避けて、福島市から実家のある名古屋市に、家族ぐるみで移り住んで 2 年半…　ふいに断ち切れた福島での生活、子育て仲間とのつながり、学びの場…

でも被災・避難しても、どこにいても、「自分は自分」。自分を 16 年間、育ててくれたのは東北の文化・コミュニティだったことにかわりありません。

そう開き直って、知多市に出かけ、「震災体験を伝える」というテーマで（そのテーマが大きすぎ、十分には伝えきれなくても）自作童話や詩、福島のわらべ歌に手遊びなどを時間いっぱい、語らせて頂きました。胸はドキドキ、声が小さくて、つかえたりしたけれど、頑張りました。

1. 震災直後・避難時 … ラジオが役立った、ネットや家族・知人の言葉を参考にした、タクシーはガス燃料なのでガソリン不足のときも走った、放射能の飛散情報はあいまいだったが息子の教材の地図帳が地形を確認するのに役立った…　等の具体的体験談

2. 避難後、被災者として教育委員会や学校、役所などに足を運び、事情を説明しつつ支援を受けたこと

3. 主に子どもに関わるボランティアで、名古屋で繋がりや学びの機会を得たこと

4. 童話の創作活動、といった内面的な立ち直りが、一番難しかったこと

私自身の体験から語れるのは、こんな流れでした。

あえて深く考えて行動していなかった…　ただ行動してきた部分を、改めて思い起こして言葉にする作業は、戸惑いも大きく、拙い言葉しか見つかりませんでした。が、あえて体験を言葉にして、それを聞いて頂くことで、私自身が癒されました。

そして、そんな私の体験談や読み聞かせなどに、温かな共感の涙やお言葉を下さった「知多・女性たちの会」の皆さま、本当にありがとうございました。被災した東北に向ける、知多の皆さまのまなざしの優しさが強く伝わってきて、とても励まされました。

また、自分と向き合い語るきっかけを与えて下さった愛知県被災者支援センターにも、心より感謝申し上げます。

被災してつくづく実感したのは、「心のケアが大切なことは、子どもも大人も変わらない」ということでした。自分に出来ることはささやかでも、夢や、子ども達の遊び心を大切にする活動を、今は愛知・名古屋で、ボランティアなど通じて続けていきたい、と願っています。

（中村 友恵 名古屋市昭和区 在住）

市町村訪問に同行して

今年 7 月、愛知県被災者支援センターの見守り支援事業の一環として実施された、市町村訪問に「訪問支援員」として、支援センター事務局の皆さんに同行させていただきました。被災者である私自身が支援員となることによって、直接被災者の声を自治体に届けることができる点や､今後行われる個別訪問（見守り支援）では、同じ境遇の方との新たな出会いがあるかもしれないと考えるととても素敵な事業であり、とても重要な役目であることを感じました。

私が訪問したのは西三河以西の 9 市町村で、今まで訪れたことの無い町も含まれていました。名古屋市郊外のベッドタウンから、工業都市、海と緑がなんとも美しい海岸線の町まであり、改めて愛知県の様々な豊かさを実感することができました。

ほとんどの市町村は丁寧に対応して下さり、被災者登録されている住民について把握されているようでした。ただ全体的に、あまり被災者の方が窓口を有効に利用していない点が残念であり、担当窓口と若干の認識のズレが生じていることから、支援に至らないことが多くあるのではないか、と感じてしまいました。

窓口の方は皆、「何か困りごとがあったらお申し出ください」と言って下さいます。しかし､「自分のことは黙って（がまんして）自分でやる」という習慣が身についているのが東北人です。多少の困りごとでは、自ら役所に足を運びません。

市町村の方が自宅を訪ねてくださることが、避難当初は多くあったようです。しかし多くの自治体では、避難者は愛知での生活に馴染んで行くほどに訪問を必要としていない、と感じているようでした。若年層の単身者や家族全員で避難している家庭は、特にその傾向が強いようでした。実際に私が訪問した市町村では、市町村判断において誰一人も、「要個別訪問」該当者はいませんでした。

我が家は家族全員での自主避難であり、夫は職に就いています。このような世帯の場合はきっと､「個別訪問非該当」となることでしょう。そして「何かお困りごとは？」と聞かれると、きっと「特にありません」と答えてしまうと思います。ただ、表面的に何も問題は無くても、「ちょっと様子を見に」訪ねていただけると、実はとてもうれしいのです。急に自治体から電話がかかってきたり、訪問されたりすると、こちらも躊躇してしまうこともあると思いますが、後からじわじわとありがたさが伝わってきます。「誰かが見ていてくれる」ということは、「うっとうしさ」や「わずらわしさ」の気持ちを打ち消すほどの力を持っています。頑張って生活している自分たちを見ていてくれる人がいる。ただそれだけでうれしいのです。「照れ」や「気恥ずかしさ」「お互いの方言」「慣習や慣わし」などが邪魔をして、はじめは上手く自分のことを伝えられない場合がありますが、何度も顔を合わせるにつれてその人の人となりがお互いに分かってくることでしょう。

身近な存在の市町村は、私たちに開かれた唯一の地域との繋がり窓口となる場合があります。震災 3 年目に生じる様々な問題について、被災者と共に考え、歩んでいけたら、ますます愛知が身近に感じられるようになることと思います。

さらに、私たち被災者の体験してきたことを、各自治体を通して地域の方々に伝えることができたら、きっと減災の一端を担うこととなるでしょう。できるところで協力して、未来ある地域を作っていくことができたら、と願いながら、これからも訪問支援員を続けられたらなと思います。

（福島市からの自主避難者　小野 佳奈）

第 11 回子育てつどいの広場

今回の参加人数は、5 世帯、大人 7 人、子ども 6 人の計 13 人でした。

8 月 4 日（日）に開催された、「子育てつどいの広場 in 瑞穂区」に娘と二人参加させていただきました。

場所は地下鉄名城線「妙音通駅」から近い場所にあるので、子連れでも行きやすい場所でもあるし、近くには駐車場もあるので、とても参加しやすいのでお勧めです。

5 世帯 13 名に、ボランティアの方々もいらっしゃっていて子ども達と遊んでくれて、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。

お昼には恒例のお好み焼きをご馳走になり（私はマヨネーズを持参していきました…）、午後から子ども達はボランティアの方々が見守る中、入口付近に水遊びプールを作ってもらって、水着を着て水遊びをしました。上がってからはジュースを飲んだり、アイスを頂いたりしました。

子ども達が外で遊んでいるなか、大人達は室内でお茶を飲みながらのおしゃべりタイムに突入していました。

前日の 8 月 3 日 9 時 56 分に名古屋で地震を感じ、とても不安になっていて、3.11 の事を思い出していたので、今日の開催に参加しいろいろな話ができて、気分転換になったので良かったです。

参加者の方々はのんびりしながら、いろいろな悩みごとなどを話し合っていたりしていて、とても良い時間を過ごす事か出来ました。

いつも対応してくれるスタッフの皆さんに感謝しています。

今後の開催を楽しみにしていますので、よろしくお願い致します。

（ペンネーム ジョリーと僕とで半分こ）

〈 お知らせ 〉

1) 次回の子育てつどいの広場は 10 月を予定しています。詳細は次回お届けするチラシをご覧ください。
地下鉄名城線「神宮西駅」1 番出口徒歩 2 分

2) 「赤いランドセル（新品）」が、わずかあります。
直接ご来所いただくか、送料着払いでお渡しできます。必要な方は早めにご連絡下さい。
年齢制限はありません。

3) ボラみみより情報ステーションは、火曜・日曜・祝日をのぞく、月～土曜日の 10 時～16 時に開設しています。冷暖房完備です。
駐車場あり。通常、入会金が必要ですが、「あおぞら」をご持参いただければ、入会金不要です。10 月末まで。

詳しくは、

ボラみみより情報ステーション
boramimist@yahoo.co.jp まで
〒467-0842
愛知県名古屋市瑞穂区妙音通 2-40
横山ビル 1 階
TEL ： 080-4228-5356（10 時～ 15 時）
FAX ： 052-811-1812
http://locoplace.jp/t000095629/

～ 戦争とダムに翻弄されながら ～　岐阜のカメラばあちゃん・増山 たづ子 さん

3.11 以降、時の世相に翻弄される中で、個人レベルの小さな、だけど大切な絆が破壊される痛みを、心をほどいて対話できなくなった苦しさを、多く耳にします。

テレビや新聞で報道されているように、同じ地区内で、道一本へだてた向こうは多額の補償金がおり、こちら側は一切の補償がない中で、人間関係にきしみが出てくる。高台移転をめぐって集落の中で意見が割れる。補償金の多い少ない、失ったものの多い少ないでジェラシーが起きる。

私や私達の周りでも、放射能から逃れたいと言えず、理由を偽って避難する。お互い腹の探りあいで、いたわりと不安が錯綜する中、地雷を踏んだり、鋭い言葉が刺さったりの心理戦に疲れ、寒々とする。隠れキリシタンのように放射能防御を心がけ、食べ物を選ぶ。

苦しい。かなしい。なんとかならないか、と思っている人は私だけではないでしょう。

増山 たづ子 さんは、「カメラばあちゃん」の愛称で有名な、岐阜県徳山村のおばあちゃん（故人）です。徳山村はダムの建設計画に長年翻弄され、湖底に沈みました。ダムができてから、このダムが本当に必要性があるのかの論議が巻き起こるなど、話題の多いダムです。

増山さんは、60 歳の時、ピッカリコニカを購入されて、村の人たちの日常を、村の光景を撮り始めました。戦争でビルマのインパール戦に行ったきり帰ってこないご主人が、横井 庄一 さんのように突然戻ることがあった時、ふるさとが水没していたらびっくりするから記録をとっておかなくては、という思いもあったそうです。

世代的なものもあるのでしょうか。「教育って怖いな」とご自身でも書かれています。

「お国のために、下流域のためにと言われると、あんら何も言えなくなるで」「戦争でもダムでも国がやるといったら必ずやるのだから大河に蟻が逆らうようなことはしない」

大きな流れに逆らえない自分自身をも見据え、その上で、自分に何がやれるか、というスタンスの方でした。

学業を断念させられ見合い結婚。だけど、畑仕事の合間にトルストイもツルゲーネフも懸命に読んでこられた、そんな女性です。

私はお元気でご活躍だった頃の増山さんと、半日ご一緒したことがあります。

増山さんが移転した上西郷のお宅は、移転先といっても広々とのどかな田舎でした。徳山村の自然の美しかったこと、村の行事の楽しかったこと、ダム建設の矛盾や政治がらみの泥沼に翻弄された村の人たちの心のありよう、悩み苦しみぬいて死んでしまった人たちのこと…　色々とお話をうかがいました。「猫がけっ転がしても撮れる」ピッカリコニカで村の一人ひとりの写真を撮り始め、撮っては配り、撮っては配り。ダム建設賛成派も反対派もわけ隔てなく写真を撮っては配り、撮っては配り。水資源開発公団の人に対しても、個々人、一人ひとりの人に対しては隔てのない態度で接してこられました。

これ以上皆がバラバラにならないように、笑顔を忘れないように。村が失われるだけでもかなしいのに、皆の心まで荒んではいけない、美しい村の記憶を皆に配ろう、愛しい故郷、消えていく故郷の姿をあますところなく残そう。増山さんの写真は、深い優しさに満ちて美しく、素晴らしかった。

あなたは？　と水を向けられたわけではない、ただ、私をまっすぐ見つめる増山さんの眼差しに、つい、ぽろりと、私は自分の話をしました。多くを語る必要がなく、増山さんの受忍してこられたかなしみと私のかなしみが響きあうような気がしました。

お宅のお庭で増山さんが撮ってくださった私の写真は、写真集の中の村の人たちと同じ、構えのない自然な笑顔で、引き伸ばした写真の裏に、こう書かれていました。

「いつまでも笑顔が消えませんように祈ります、人間はどうにもならないことに突き当たることがある。天からの試練と思ひ、耐え忍ぶことが人間

の向上につながると思ふ、一日一日を大切に生かして頂きませう。徳山村のばあちゃんより、71才」

時の世相に翻弄されても、立場が違っても、人はわかりあえる。響きあえる。増山さんの著作や写真集はそのことを思い出させてくれるものだと思います。

増山さんの講演の締めくくりはいつも、「みんな仲良く、幸せにな」でした。

みんな仲良く、幸せにな！

☆増山 たづ子さんの写真集・著作物、出演した映画など

- **「ありがとう徳山村－増山たづ子写真集」（影書房）**
- **「故郷―私の徳山村写真日記」（じゃこめてぃ出版）**
- **「増山 たづ子 徳山村写真全記録」（影書房）**
- **「ふるさとからの転居通知」（情報センター出版局）**
- **映画「ふるさと」（神山 征二郎 監督・徳山村を舞台にした映画、増山さんも出演）**

（愛知県被災者支援センター
編集委員 吉田 育子）

「あおぞら」発送お手伝い体験記

夏休み。

子どもとふたりで、「愛知県被災者支援センターニュース あおぞら」発送のお手伝いをしました。用事と用事の間の隙間の時間、ふと思いついて、愛知県被災者支援センターに電話。「3時まで時間があるのですが、発送作業のお手伝いをできるかなと思いまして。いかがでしょうか？」と申し出てみると、嬉しそうなお返事。「よろしくお願いします！」、ということで、子どもとふたり、伺いました。

私は「あおぞら」を一枚づつ、ページを組んで重ねました。子どもはホチキス止め、住所シール貼り、クリップを袋から取り出して使いやすいように広げる、などやりました。センターのスタッフの方たちと、他愛のないおしゃべりをしながら。子どもには、日ごろ訪れることのないオフィス空間での、事務作業初体験になりました。なごやかな、よい時間でした。

数日後、送られてきた封筒を見せると、「わーい！」と飛びつくようにして、ビリビリやぶって「これは僕がやったホッチキスだよ」（なんでわかるの？… 笑）とおばあちゃんに報告。

ちょっと隙間の時間、ついでの時間に、おすすめです。

（吉田 育子 半田市 在住）

★「あおぞら」などの発送作業は、毎月10日と25日の前日の午後と、当日午前中に行っています。休日や部屋の都合などで多少日程が前後する場合がありますので、お手伝いくださる方は、愛知県被災者支援センターにお問い合わせの上、お願いします。

（TEL ： 052-954-6722）

あおぞら・情報掲示板

「アースデイいわき実行委員会」のインディアン吉田と申します。（あおぞら 第33号 平成25年 4月25日発行 P 2～ 3 参照）
私は福島県出身です。皆様と故郷や今の状況は違えども、大好きな故郷を離れて、今は愛知県民”同志”ですね。
一緒に何かしたい！ 行動したい！ 思いを共にしてくれる方なら、東北出身、関東出身、老若男女、どなたでもイベント活動や会への参加は、ウェルカムです♪
この会の活動を通して、誰かの一歩の”きっかけ”につながれば幸いです。
アースデイいわき実行委員会が、近日、出展予定 & 企画中のイベントを”４つ”ご案内させていただきます。
問合せ先 ： 090-2664-2959（吉田 拓也）

イベント

/// みちのく地ビールフェスティバル ///

８月30日（金）～ ９月４日（水）
＜土・日＞ 11:00 ～ 21:00 ＜平日＞ 16:00 ～ 21:00
場所 ： 名古屋 栄 矢場公園
東北地ビール・地酒、東北名物屋台、ステージなど楽しみにお越しください。
☆いわき名産「メヒカリ唐揚げ」を出店します♪
（協力：蒲郡市漁業振興協議会）
主催 ： みちのく地ビールフェスティバル実行委員会

/// あいちトリエンナーレ 2013 from プロジェクト FUKUSHIMA! ///

９月７日（土）15:00 ～ 20:00
９月８日（日）11:00 ～ 17:00
場所 ： 名古屋 栄 オアシス 21
「いまの福島」と「未来の福島」の姿を全世界に向けて発信していこうとするプロジェクト「フェスティバル FUKUSHIMA! 納涼！ 盆踊り」が熱気そのまま、櫓舞台装置とアーティストと共にトリエンナーレにやってきます！
アースデイいわき実行委員会もこのイベントとコラボします。特設の櫓とインディアンテントを会場に設営し、全国各地から集うアーティストたちと参加者が入り交じって、オリジナルの盆踊り「あまちゃん音頭」を踊りまくる２日間の音楽イベント。無料の親子ワークショップなども開催されますのでお気軽にお越しください！
アーティスト ： NPO法人 プロジェクト FUKUSHIMA!
愛知でつくる「フェスティバル FUKUSHIMA!」
主催 ： あいちトリエンナーレ 2013 実行委員会

/// モリコロパーク秋まつり 2013 ///

９月21日（土）～ 22日（日） 10:00 ～ 17:00
場所 ： 愛・地球博記念公園
あいちの環境技術の紹介、市民参加ステージ、工作・体験ブース、東日本大震災被災地支援の取り組みなどのイベントが行われます。遊びにきてください。
アースデイいわき実行委員会では、シンボルタワーとして、インディアンテント「ティピー」を設営し、以下のブース展示・プログラムを実施します。お立ち寄りください。お待ちしています。
・県外避難者への支援報告
・東北物産コーナー販売ブース設置
・東日本大震災被災地の写真展示
・アースデイいわき音楽隊
主催 ： 愛知県

/// 名古屋発 ”いわきの変な人”に会いにいっちゃおうツアー！ ///

10月12日（土）～ 14日（月・祝）
「再会＆出逢いの旅！」と銘打って、名古屋発いわき行きの２泊３日の旅を企画しています。一緒にこのツアーに参加しませんか？
今こそ、現地の人から学ばせてもらうことがいっぱいあるような気がしています。だから、観光ガイドに出てくるような、いわゆる観光地には行きません。
ピカピカ輝いているいわきの人に会いに行く出逢いのツアー企画です！ 詳細はまた後日ご案内します♪
主催：アースデイいわき実行委員会

皆様からの情報をお待ちしています。

◆ 応募方法
◎ メールまたはFAXにて
E-mail ： aozora@aichi-shien.net FAX ： 052-954-6993
◎ 文字数：1情報につき200字以内
◎ 氏名・現住所・電話番号を明記してください。
（実名・匿名・ペンネームなど、掲載の表記希望をお知らせください）
※ 掲載時、こちらで編集したり、内容によっては掲載不可となる場合もあります。その他、相談させていただく場合があることを、ご承知おきください。

※ これらは、さまざまな方々から寄せられた情報を元に掲載しています。
掲載された情報元にご確認のうえ、皆様の判断でご利用ください。